

令和元年6月24日現在

機関番号：37101

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2017～2018

課題番号：17H07296

研究課題名（和文）北園克衛、瀧口修造、西脇順三郎における欧米モダニズムの受容に関する研究

研究課題名（英文）Study of acceptance of Western modernism in Japan

研究代表者

大川内 夏樹（Okawachi, Natsuki）

九州共立大学・経済学部・講師

研究者番号：10802514

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、北園克衛、瀧口修造、西脇順三郎を中心に日本のモダニズム詩人における欧米モダニズム受容について検討した。近年、海外の図書館や美術館は、欧米モダニズム関連のデジタル化資料のインターネット上に公開しているが、本研究ではこれらの資料を積極的に活用し、瀧口らがどのような書籍や雑誌を通じて、欧米モダニズムを受容し、またそのことが当時の瀧口らの作品の成立にいかん作用したのかについて、実正的に考察した。特に、1930年前後の瀧口修造のダダ・シュルレアリスム受容の問題については重点的に調査を行い、瀧口の「地球創造説」などの初期の代表作との関係を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

先行研究においても、日本のモダニズムにおける欧米モダニズム受容の重要性はしばしば指摘され、検討の対象となってきたが、一次資料の入手が難しいことが壁となり、具体的な検証作業は十分に進んでいなかった。しかし近年、モダニズム関連資料の復刻版の刊行や図書館や美術館などによる所蔵資料のデジタルデータでの公開が進み、資料へのアクセスが容易になってきた。本研究では、これらの資料を積極的に活用し、日本において欧米モダニズムがどのように受容され、またそれが日本のモダニストの作品の成立にどう作用したのかを実証的に考察することで、日本のモダニズムに関する比較文学的研究に貢献した。

研究成果の概要（英文）：This study examined how the Japanese modernism poets, such as Kitazono Katsue, Takiguchi Shuzo, and Nishiwaki Junzaburo, accepted the western modernism.

In recent year, digital documents of the western modernism literature are available online at the many libraries and museums's website. Actively using the digital documents, this study demonstratively viewed what kind of books and magazines Takiguchi and other modernists read, how they accepted western modernism, and also how it affected the formation of their works. Especially it is focused on and examined that the issue of how Takiguchi accepted dada and surrealism around 1930, and viewed how it affected his early representative works such as "Chikyu Sozo Setsu".

研究分野：日本近代文学

キーワード：モダニズム 瀧口修造 ダダ シュルレアリスム 北園克衛 西脇順三郎

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

日本のモダニズムに関する先行研究では、欧米モダニズムの受容の問題については、しばしばその重要性が指摘され、検討課題とされてきた。しかし、国内外を問わず、モダニズム関連の資料は希少性が高く、資料へのアクセスの難しさゆえに、個別・具体的な考察は十分には行われてこなかった。しかし、近年、日本のモダニズムに関する資料の復刻版(和田博文監修『コレクション・モダン都市文化』(ゆまに書房、2004-2014)、和田博文監修『コレクション・都市モダニズム詩誌』(ゆまに書房、2009-2014)など)の刊行や、海外の図書館や美術館など(Bibliothèque Kandinsky、Bibliothèque nationale de France、The International Dada Archiveなど)による所蔵資料のデジタル化資料のインターネット上での公開が進んだことで、これらの資料を活用し、日本のモダニズムにおける欧米モダニズム受容の実証的な研究を行い得る状況が整いつつある。

### 2. 研究の目的

(1)近年、モダニズム関連資料の復刻版の刊行や、インターネット上でのデジタル化資料の公開が進んでいる。本研究では、これらの資料を積極的に利用し、日本のモダニズム詩人たちが、欧米で発行されていたいかなる書籍や雑誌を手に取り、どのような作品を読んでいたのかについての調査を行い、日本における欧米モダニズム受容に関する実証的な考察を進める。本研究が重点的に考察の対象とするのは、瀧口修造、北園克衛、西脇順三郎という日本のモダニズム詩の運動を牽引してきた、3人の詩人である。

(2)日本における欧米モダニズム受容の問題を考える上では、単に日本のモダニズム詩人たちがどのような作品を読んでいたのかということだけでなく、それらの作品からどのような刺激を受け、またそのことが日本の詩人たち自身の作品の形成にどのように作用したのかを検討することが必要となってくる。そこで本研究では、特に1920年代から30年代にかけての瀧口修造、北園克衛、西脇順三郎の作品を取り上げ、これらの詩人の作品に、欧米モダニズムの受容が具体的にどのようなかたちで関わっていたのかを明らかにする。

(3)上記の(1)、(2)の作業に加えて、日本における欧米モダニズム受容について考えるためには、個々の詩人に関して個別に検討を加えるだけでなく、複数の詩人を相互に比較することで、それぞれの詩人における欧米モダニズムの受容の特性を明らかにしていく必要がある。本研究では、瀧口修造、北園克衛、西脇順三郎について、特にシュルレアリスムなど、フランスのモダニズムの受容に焦点を当てながら、相互に比較検討を行い、それぞれの詩人のケースの特性を明らかにする。

### 3. 研究の方法

(1)日本のモダニズムに関する資料(書籍や雑誌など)は、発行部数が少なく散逸も進んでいるために、公共図書館等には所蔵されていない場合が多い。しかし、近年、日本のモダニズム関連資料の復刻版の刊行が相次ぎ、以前に比べて資料へのアクセスが格段に容易になっている。本研究では、これらの復刻資料を中心に、特に1920年代から30年代にかけての日本のモダニズムにおける欧米モダニズム受容に関する資料を網羅的に調査することで、これまではっきりとは分かっていなかった日本のモダニズムにおける欧米モダニズム受容の具体的な状況について検討する。

(2)欧米のモダニズムに関する資料(書籍や雑誌など)は希少性が高く、例えば日本の詩人や作家がある雑誌を読み、大きな刺激を受けたことが分かっているにもかかわらず、とりわけ日本国内においては、その雑誌を閲覧することができないという場合が少なくない。しかし、近年、海外の図書館や美術館などが所蔵するモダニズム関連資料のデジタル化データがインターネット上に公開されるようになり、資料へのアクセスが容易になってきている。本研究では、これらのデジタル化資料を網羅的に調査し、日本のモダニズム詩人が、どのような書籍・雑誌を通じて、どのような作品に触れていたのかについて、実証的な検討作業を行う。

(3)上記の(1)、(2)の作業を基礎としつつ、本研究では瀧口修造、北園克衛、西脇順三郎という3人の詩人の1920年代から30年代にかけての作品を取り上げ、彼らの作品に、欧米モダニズムの受容がどのように作用しているのかを考察する。またその上で、3人の詩人の欧米モダニズム受容の状況を相互に比較することで、それぞれの詩人のケースの特性を明らかにする。

### 4. 研究成果

(1)近年、多数刊行されている日本のモダニズム関連資料の復刻版や、海外の図書館や美術館などが所蔵するモダニズム関連資料のデジタル化データを網羅的に調査することで、瀧口修造、北園克衛、西脇順三郎のモダニズム受容の具体的な状況を確認することができた。

(2)上記(1)の作業において、特に瀧口修造の1930年前後のダダ・シュルレアリスム受容については、詳細な検討を行い、以下のような成果を得ることができた。

瀧口修造の初期の代表作である「地球創造説」を取り上げ、瀧口のダダ受容との関わりから考察を行った。具体的には、瀧口が関心を寄せていたダダイストのトリスタン・ツァラの『七つのダダ宣言』やフランシス・ピカビアの『ユニーク・ユヌーク』などの宣言書や詩集を取り上げ、「地球創造説」との比較を行った。その結果、また「地球創造説」に見られる言語イメージにツァラやピカビアの作品の受容の痕跡が見られることが明らかとなった。また先行研究においてはこの時期の瀧口の作品が論じられる場合は、シュルレアリスムとの関係が注目されることが多かったが、ダダ受容が重要な位置を占めていることを指摘することができた。この成果については、〔学会発表〕において発表した。

1930年頃に瀧口修造がフランスのシュルレアリスムにおける自動記述の方法を用いて書かれたとされる作品群について検討した。これらの作品群が、フランスのシュルレアリスム作品の受容を背景として書かれたものであることはしばしば指摘されてきたが、具体的に瀧口が、どの作品のどのような点に触発され、それをどのように応用しながら作品を書いたのかという点については、詳細な考察はなされてこなかった。本研究では、特にアンドレ・ブルトンの『シュルレアリスム宣言・溶ける魚』との関係に着目し、瀧口が自動記述の方法をそのまま用いるのではなく、それに刺激を受けつつも、書くという行為に関する独自の試みをしていたことを明らかにした。この成果については、〔学会発表〕において発表した。

(3)上記の(1)、(2)の作業を進める過程で、特にシュルレアリスムの受容に関して、瀧口、北園、西脇の差異が明らかになった。とりわけ自動記述の方法の取り入れ方については、三者において大きな開きがあることが分かり、今後の研究を進める上で有用な手がかりを得ることができた。また瀧口修造は、日本におけるシュルレアリスムの有力な紹介者の一人であり、瀧口のシュルレアリスム受容の状況を明らかにする過程で、日本におけるシュルレアリスム受容に関する一つの傾向が見えてきた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

発表者(代表)名、発表タイトル、学会等名、発表年

大川内夏樹、瀧口修造はどう書いたか 一九二七～三一年の作品の方法について、日本近代文学学会秋季大会、2018

大川内夏樹、瀧口修造「地球創造説」論 ダダ受容との関わりから、日本近代文学学会九州支部春季大会、2018

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。